

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月14日 まちづくり協働センター）

参加人数:17名

No.	意見の内容	市の考え方
1	○ロードマップ（案）の策定経緯について 新病院建設の白紙撤回を反故にした結果、10年間で93億円もの収支不足が発生することになったことから、市長には説明責任があるのではないかと。	（北神地域の）救急医療の確保のため、新病院整備を進めることに変わりはない。ご理解をお願いしたい。【市長】
2	○フラワータウン市民センターの移設について 商業施設の中に入ってしまうと、利便性が損なわれるうえ、賃料が発生するなど財政負担が増えることが想定される。また、ホールの廃止により地域イベントの開催が困難となり、魅力の減少や市民活動の停滞も想定されることから、現在の場所に残してほしい。	フラワータウン再生の視点で、利便性や魅力の向上などが図られるよう提案したものである。ただし、説明が不足していたため、先日から住民説明会を実施しているところであり、ご理解をお願いしたい。【市長】
3	○学校・幼稚園の統廃合について 財政的な視点ではなく、教育上の観点から実施してほしい。	小中学校の統廃合については何年もかけて検討してきたが、結果的に本市では他市に比べて全く統合が進んでいない。あるべき姿を見定めようという取組提案であり、市民の声は今後も聴いていくつもりである。【市長】
4	○ごみ袋の値上げについて 物価高騰に輪をかけて市民生活を圧迫することになるので、やめてほしい。ごみの減量のためには分別収集、市民啓発で対応するべきである。	ロードマップの取組（案）は、市民生活への影響を第一に考えたうえで、様々な案の中から取捨選択した結果である。ごみ袋の値上げについては、その辺りも考慮したうえで、今までどおり税金のみで処理するのか、応分の負担を少しずつしていただくのかという違いであり、ご理解いただけるよう今後も丁寧な説明を心がけたい。【市長】
5	○ごみ袋の値上げについて ある程度市民負担はしないとイケないとは考えるが、県下有料化自治体の一覧表は、規模の小さい自治体ばかりであり、値上げ幅を決めるための誘導ではないか。	誘導する意図はないが、そのような印象を与えたということであれば、改善を検討する。繰り返しになるが、ごみを今までどおり税金のみで処理するのか、応分の負担を少しずつしていただくのか、ご理解をいただくための期間も設けている。決定事項ではなく、値上げ額については今後の経済状況も踏まえながら、変更する可能性もある。【市長】
6	○公共施設の修繕計画について 修繕の必要性は以前からわかっていたはずだが、それに向けての計画や資金積立はしてきたのか。	資金面では、財政調整基金の積立はしてきている。また、公共施設の管理の面では、個々の施設レベルの精緻なものではないが「公共施設等総合管理計画」において、全施設の延床面積を12%削減するという計画も掲げている。そういう面では、小中学校は必然的に主な対象となってくるため、計画もしていたが一向に進んでおらず、早急に取り組む必要がある。【市長】 財政調整基金とは別に、R1年度から黒字の一部を財源に、毎年3億円程度を公共施設等整備基金に積み立てている。それでも、全施設の修繕を賄えるものではない。今後は、新ごみ処理施設等の整備に大きな取り崩しを予定しているが、その後の投資経費も賄っていく必要があることから、今後の方向性についてはしっかりと考えていく必要がある。【財務部長】
7	○総人件費の抑制について 市職員の給料が全国的にも高いという噂であるが本当か。また、効果額については自然減によるものではないのか。	ニュータウン開発に伴う人口増に対応するため大量採用した層が50代になったこともあり、給与水準が全国6位という調査結果もあるが、平均年齢が高いことも影響している。当然、退職により入れ替わると水準は下がることになる。なお、効果額は自然減ではなく、取組により削減可能となる人員を見込んだものである。今後は、採用は非常に厳しい状況であり、結果として職員数が減ることになるが、働き方改革により選ばれる職場になることで優秀な人材の確保につなげたい。【市長】
8	○企業誘致について 全庁挙げて取組を検討したとのことだが、企業誘致の話が出てこないのはなぜか。	昨今の経済状況を鑑みて、新たな産業団地の検討については様子見の状況であるが、産業を活性化して収入を増やさないといけないのではないかと、という意見は出ているので、今後検討していく。【財務部長】

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
 市民意見交換会における意見及び回答  
 （令和7年10月14日 まちづくり協働センター）

参加人数:17名

No.	意見の内容	市の考え方
9	<p>○フラワータウン市民センターの移設について</p> <p>市民の声を聴くと言いながら、市長が説明会に来なかったのはなぜか。働く場所を作るなど、三田に残れるような、施策を考えていただきたい。</p>	<p>今回は公務等の都合により、関係部局の職員で対応したものであり、個人的に行く必要がないと判断したわけではないことは誤解しないようお願いしたい。</p> <p>フラワータウンについては、若い人に住んでもらわないと活性化しないが、センター地区には住む場所がないという課題がある。イオンに残ってもらうのがリボンの第一歩で、商業施設は必要である。そういうところを総合的に判断する必要がある。何を優先的にやらないといけないのか考えていくための住民説明会やアンケートであり、引き続き不十分であれば市民の皆さんが納得できるような形で進めていきたい。【市長】</p>
10	<p>○三輪幼稚園のあり方検討について</p> <p>民間事業者による認定こども園化が示されているが、市がお金になるから手放すとも見て取れる。将来の子どもたちのためというが、今の子どもたちやその保護者についてどう考えるのか。動揺が広がっており、納得できる説明をお願いしたい。</p>	<p>関係者の皆さんに混乱を招いたことについて、市を代表してお詫び申しあげる。今回、ロードマップ（案）には、課題があって進んでいない取組を載せたという面もある。効果額が示されたことが余計に不安にさせた部分はあると思うが、しっかりと皆さんの意見を聴きながら進めていく考えである。</p> <p>幼稚園、保育園については、保育と教育の2つを未来の子どもたちのためにどうしていくのかという問題意識があるが、担い手の問題もあり市単独で進められるものではなく、民間の力を借りることも検討する必要がある。今後、進めていくにあたっては保護者の皆さんに不安を抱かせることがないように整理をしていきたいと考えている。【市長】</p>
11	<p>○三輪幼稚園のあり方検討について</p> <p>ロードマップ（案）では「こどもを核としたまちづくり」が謳われているが、三輪幼稚園だけが民間委託となっている理由を教えてください。公立幼稚園が担ってきた政策保育、特別支援の必要な子どもへの対応をどのように考えているのか。</p> <p>また、この取組内容は議会に説明したのか、また専門家を交えた第三者機関で検討されたものかどうか、教えてください。</p>	<p>まずは、関係者の皆さんの不安が解消できるように市としてもきちんとして説明していくことを前提として、ロードマップ（案）については、今年2月に策定した財政収支見通しが非常に厳しい状況を踏まえ、その対策としてまず骨子を作成した。この計画全体については議決事項ではないが、取組まなければならないことについては議会に説明している。なお、取組を1つ1つ進めていくにあたっては、個別に議決が必要なものもあり、当然議会のチェックも入ることになる。そういう流れの中でこういう動きをしていることをご理解いただきたい。【財務部長】</p>
12	<p>○三輪幼稚園のあり方検討について</p> <p>収支改善の取組に教育施設が挙げられていることについて、憤りを感じる。なぜ、三輪幼稚園だけ民営化されるのか。認定こども園化は必要だが、公立のままできないのか。私立で受け入れてもらえない子や経済的に厳しい子にとっては公立幼稚園が必要である。また、三輪小学校との連携が強いという特長があることも考慮してほしい。</p>	<p>なぜ財政という切り口なのかという批判については、伝え方の問題があったという点で、十分に受け止めたいと考えている。もちろん、市として一枚岩となって仕事をしているが、財政部門の立場からすると、一つの施策に責任を持って説明することも重要だが、一方で将来的に財政が非常に危険であるということについては、どのように対策をしていくのかを市民に説明し、実際に対策を行うという責任があることから、今回パッケージとして報告させていただいた。ただ、それにより動揺が広がっていることについては反省し、適切に対応していきたい。</p> <p>三輪地区については、市全体として少子高齢化の流れがある中でも、民間の保育事業者にとって魅力的な地区である。もちろん、公立保育の意義は理解しており、一概に民間事業者が悪いとも考えていない。その辺りをうまくコントロールし、市民の負担を抑えながら検討していきたいと考えている。ただ、市として把握できていない課題もたくさんあるということであれば、それは意見をお聴きして対応していきたいと考えており、場合によっては方向性を見直すこともある。【財務部長】</p> <p>政策保育については、仮に民間に事業を委託する場合でも市として全面的に支援していく方針である。【市長】</p>
13	<p>○三輪幼稚園のあり方検討について</p> <p>仮に民営化が今後決まったとして、公立であることを前提に入園した子どもが、途中から民間になるということはあるのか。</p>	<p>入園後に想定していなかった事態が起こるということはないように調整するつもりである。【財務部長】</p>

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月17日 有馬富士共生センター）

参加人数:11名

No.	意見の内容	市の考え方
1	○ごみ袋の値上げについて 昨今の物価高騰の折、市民の生活を守るため使用料、公共料金等は据え置くという決断をお願いしたい。	物価高の状況は把握しているが、早くてもR11からであり、それまで市民生活に与える影響も十分に考えながらしっかりと検討していく。【財務部長】
2	○幼稚園の統合について 今年の4月にありまふじ幼稚園になったばかりで、統合前後の効果測定もできていない段階で、次の統合（松が丘）の話をするのは早すぎるのではないかと。それなら、今回まとめて統合すればよかったのではないかと。	望ましい保育・教育環境の整備という観点から、H30から進めてきている内容を踏まえ、改めて提案させていただいたものである。松が丘幼稚園についても、園児数が減少してきており、時間的猶予がない状況である。ただ、来年入園する園児から直ちに実施というわけではない。【財務部長】 先日の意見交換会でも、唐突感があるとの市民意見があったことから、丁寧な説明を心がけていく。【市長】
3	○補助金の見直しについて 財政の引き締めとなると、真っ先に切られるのは補助金であると思うが、どのような考えがあるのか。	現時点で具体的にどの補助金を対象とするか決まっているわけではない。補助金には公益的なものを支援する目的があることから、ガイドラインを見直したうえで、そのあり方に照らして、個々の補助金がどうなっているのか確認しながら調整を進めたいと考えている。【財務部長】
4	○ロードマップ（案）策定の背景について 93億円の収支不足の原因は新病院建設にあるのだから、やめてもらいたい。	市民病院のあり方については、これまでも時間をかけて検討を進めてきており、必要なものと判断をして進めているものである。財政的には93億円の収支不足の大きな原因は新病院建設ではない。ただし、将来的には大きな負担となることは想定されるため、そこに向かっていくためにも目先の収支不足の解消に取り組む必要がある。【財務部長】
5	○ロードマップ（案）の取組目的について 少子化を理由にロードマップの取組みを推し進めないでほしい。少子化対策は具体的な取組を検討すべきである。	少子化対策については人口施策全体で取り組んでいるもので、ロードマップ（案）ではなく、他の施策や予算で示していく。【財務部長】 少子化対策については、既にR7から6つの無料化や移住定住促進の予算をつけている。働く世代をターゲットに移住定住を促し、人口減の中身を変える取組を行い、結果的に歳入増につなげていきたい。【市長】
6	○ロードマップ（案）の位置付けについて 市民病院に係る費用は10年後以降に負担が大きくなることから、このロードマップは位置付けがおかしいのではないかと。	10年後以降の負担増には、今現在の課題を解決しないことには備えられないことから、取組としては必要であるとの考えからお示しさせていただいているものである。【財務部長】
7	○ごみ袋の値上げについて 市民にとって大きな負担であり、税金の二重取りである。市としてそれ以前に何かすることがあるのではないかと。	市民負担を増やさないようにしたいところではあるが、限られた財源の中でサービスを提供するには、いろいろな可能性を探る必要がある。受益者負担のあり方を議論するのは自治としてあるべき姿だと考える。ごみ袋の値上げはその視点で示させてもらっている。市としても、市役所内部の見直しにより、組織のあり方や人件費の抑制など仕組みを変えることでコストを下げる努力をするので、理解をいただきたい。【財務部長】
8	○長期財政収支見通しについて R6.2に示したような20年の収支見通しについて、（あるはずの）最新のものを示してほしい。	20年の収支見通しについては従来から誤差が大きくなるなどの理由から作成しなかったが、市議会から一旦示してみるべきとの声があったことから、R6.2に初めて示したものである。結果として、精度が低いことが改めて確認されたため、10年間の収支見通しの作成としている。【財務部長】

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月17日 有馬富士共生センター）

参加人数:11名

No.	意見の内容	市の考え方
9	○学校・幼稚園の統廃合について 郡部の小学校・幼稚園を統合していけば、農村地域に若い人が来なくなり、荒廃してしまう。未来のためと言いながら、矛盾していないか。	専門家にも入ってもらって十分に議論した結果、一定以上の集団規模が望ましいとの結論を得たことから、現在のあり方の見直しにつながっており、その路線は変わっていない。ただ、その進捗が芳しくないことから、改めてロードマップ（案）に示し、議論をしながら進めていきたいと考えている。【財務部長】
10	○ロードマップ（案）策定の背景について 収支不足の原因である大型投資事業（新病院建設）を見直すべきではないか。人口が減少する中で維持できるのか。 また、取組の結果、至る所で市民サービスが悪化する。結果として人口が減るのではないか。	大型投資案件については、見直せるものと見直せないものがある。ロードマップ（案）にも個別項目を立てており、その中で意見をいただきながら検討を進めていく。 市民サービスの悪化が人口減少につながる可能性は危惧しているところであり、今後予算等を含めて住みたいと思ってもらえる施策を示していく必要があるが、一方で財政的な制約があることについても説明していく必要がある。【財務部長】
11	○ロードマップ（案）の示し方について 出し方がおかしい。	ロードマップ（案）は財政的な課題を発端に進めるものであり、こういう出し方になってしまっている。ショックを与えたという点は反省し、今後改善していく必要があると考えるが、財政的に限りがある中で、何をしていくのか考えなければならないということをお示しする必要があることから、今回このような形を取らせていただいた。【財務部長】
12	○ロードマップ（案）のメリットについて 記載内容からはメリットが見えない。（負担増の内容しかない。）メリットは示せないのか。	ロードマップ（案）が93億円の収支不足を解消するための取組をまとめたものであり、この中ではメリットを示すことは難しい。ただ、未来への投資を確保するというメッセージにもあるように、R8、R9予算ではその辺りを具体的な施策としてお示ししたいと考えている。【市長】
13	○人材確保と組織力の強化について 方向性の中身をもう少し具体的に教えてほしい。職員に役人然としている人が多すぎる。もう少し市民の立場に立ってほしい。	技術の伝承ができていないことが問題としてある。整理整頓から始まり、DX化、マニュアル化、多能化という働き方改革を進めることで時間外勤務を削減し、選ばれる市役所を目指していく。【市長】
14	○財政効果見込額について 取組20の財政効果見込額の算定根拠について教えてほしい。	財政効果見込額は、前提となる財政収支見通しの算定額がロードマップ（案）に取り組んだ場合にどう変わるかを示したものである。 収支見通しでは再編統合が決まった学校の校舎はすぐに取り壊すことを前提に費用を算定していたが、今回の方針では、今後の活用方針が決まるまでは取り壊さないこととしたため、その取り壊し費用が効果見込額となる。【財務部長】
15	○フラワータウン市民センターの移設について あと30年ほど使えるにもかかわらず、イオンの建物に入って、賃料を払い続けるのか。郵便局からの賃料収入もなくなってしまう。無駄ではないのか。	別途、住民説明会で説明している通りだが、移転費用だけの問題ではなく、まちづくりという視点でも考えなければならない。【市長】
16	○市民病院の再編統合について 10年後以降、さらに赤字が膨らむのではないか。人件費や5年ごとに機器交換の費用もかかる。国立病院も赤字と聞いた。診療報酬も上がらない中で、厳しいのでは。	過去の市民説明会でも示しているが、借金が財政を圧迫することは認識しており、懸念もしている。ただ、一番大きいのは医師がいなければ病院は成り立たないということである。再編統合の旗を降ろすと直ちに医師がいなくなる。今後の医師の確保を最優先に、物価高騰による影響を踏まえつつ収支の見直しを立てていく。【市長】

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月17日 有馬富士共生センター）

参加人数:11名

No.	意見の内容	市の考え方
17	○ロードマップ（案）策定の背景について 財政を健全化し、未来へ投資することは必要だが、大型投資が収支を悪化させている。これを解消するビジョンが描けていない段階でジャッジをしていいのかわからない。市民も不安があるのだと思う。	大型投資事業を止めるべきとのことだが、公共施設は幅広く、止められないものについては現状の計画を変更して縮充の視点で実施していく。また、中期的投資については、ロードマップ（案）とは別に常時検討していく。【市長】
18	○成長戦略について 全国どこでも人口が減少する中で、三田市が他とは違い脱却できる明確な方法を示すべきである。 例えば、ベッドタウンとして選ばれるには、教育水準を上げ、高校の水準を上げることが考えられる。	ロードマップ（案）には時間的制約もあり具体的なことは書かれていない。別途、市民に示していく。 なお、三田市の教育水準は高い方で、給食についても高いレベルで提供している。教育環境についても悪くはない。ちなみに、住みたいまちランキングは179位から45位に上がっている。今住んでいる人にも、その辺りを実感してもらえるよう伝えていきたい。【市長】
19	○ごみ袋の値上げについて 知らない人が多いことから、意見があっても言えない状況であり、正しい情報をいろいろな手段で伝えるべきである。	小さな声を拾うのは行政としての使命であり、今後も意識をして進めていきたい。今回導入を検討する手数料ではごみ処理費用の一部しか賄えない状況である。収支が厳しいとわかっていながら、今後も全ての費用を税で賄うのか、考えた結果として提案させていただいている。 厳しいとわかっていながら何もしないわけにはいかない。それがこの取組案である。他に良い方法があればそれもありだが、市として考えた結果が今お示ししている案である。【財務部長】
20	○市民病院の再編統合について よくわからないまま進んでいる。661億円の事業費がさらに増えるのではないかと不安がある。 また、近くにあることが大事であり、そのような市民の声を聞いてほしい。	事業費の増加については今後も考慮しながら、検討を進めていく。【財務部長】
21	○市民病院の再編統合について ロードマップ（案）を検討するうえでは外すことのできない要素である。命を守るため、なるべく早く作ってほしいと考えているが、昨今の物価高、人件費高騰を踏まえるともっと事業費が増えるのではないかと不安になる。現時点での見通しを教えてください。	病院事業費については適切に見直し、包み隠さず市民にお伝えする必要があると考えている。試算の前提条件が変わり、それを見直すことは非常に大きな作業であり、1ヶ月ごとに示すなどということは無理であるが、現在作業を進めているところである。 それが固まったうえで、三田市の財政が大丈夫かどうかは確認することになる。その作業には非常に大きな時間と手間がかかるが、今年度内にはお示しする予定で動いており、財政収支見通しについても適切に反映をする予定である。【財務部長】

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月18日 広野市民センター）

参加人数:10名

No.	意見の内容	市の考え方
1	○ロードマップ（案）のメッセージ性について 身の丈にあった財政規模にしていくというメッセージ性が弱い。全国的に人口が減る中で増やすことは難しい。人口減少という現実を受けて財政計画をどうするのかを検討すべきではないのか。	三田市は20万人都市を目指してインフラ整備をしてきた。公共施設については、このタイミングで縮充の観点から整理しているところである。【市長】
2	○子どもに特化した取組について 高齢者を対象とした補助金を思い切って子どもに特化することが必要ではないのか。メリハリをつけないと財政改善は実現しないと思う。	高齢者の医療や社会保障経費については簡単に圧縮できないと考えている。子どもを増やすというよりは、子育て（働く）世代に三田市に移住・定住してもらうことを考えている。R7には18歳までの医療費無料化、中学校給食の無料化など、6つの無料化を実施している。タダだから喜んでいただけというよりは、三田市で安心して子育てしていただくための施策である。【市長】
3	○三田市の生き残り戦略について 今後三田市がどのように生き残るかの戦略の印象が弱い。今までの生活の居心地がいいから誰も文句を言わないが、コンパクトシティ的な打ち出しは必要ではないか。生き残れなければ夢を描いても現実的でない。	三田市には旧市街地、農村部、ニュータウンと分けられ、コンパクトシティ構想を一気に打ち出すのは難しい。現在は地域に合わせた課題解決を進めているところである。【市長】
4	○公共施設の更新について 市内工務店を活用することで、市内でお金が回るようになり税金にもつながる。また、働き口になれば関学生の流出も防げるのではないのか。	今年度から包括管理委託を導入しているが、日常のメンテナンスの再委託先については、できる限り地元の業者を活用するようにしている。地域経済の活性化は従来から公共の役割であり、意識しているところである。【財務部長】
5	○職員の採用について 関学生を積極的に採用すれば、流出を防げるのではないのか。	良い人材の確保については、市としても職場環境等の改善をアピールしながら進めていくところである。【財務部長】
6	○職員の働き方について フレックスタイム制を導入すれば、働きやすくなり、コストカットにもつながるのではないのか。	魅力ある職場づくりが大切であることは認識しており、今後具体化しながら進めていく。【財務部長】
7	○ごみの分別とリサイクルについて 分別すればごみも資源になる。いらないものを循環させる仕組みを検討してほしい。	減量化、資源化は進んでおり、1人当たりのごみ排出量も減ってきている。引き続き取組は進めていくところであり、リサイクルを推進し、使えるものは使っていくというスタンスである。【財務部長】
8	○使用料の値上げについて 市民生活を充実させることで、三田が人の集うまちになればいいと考えるが、先頭で頑張っている団体が手弁当で頑張っているのもその辺りは応援してほしい。土日の稼働率を指標に入れてほしい。	市民活動で公益を支えていただいている方への配慮の必要性については認識をしているところであり、取組23、24のように、多様な主体が強みを生かせる仕組みについて今後検討していく。【財務部長】

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月18日 広野市民センター）

参加人数:10名

No.	意見の内容	市の考え方
9	<p>○ごみ袋の値上げについて</p> <p>全国で約3分の2の自治体で導入されているとのことだが、阪神間では実施されておらず、宝塚、川西、伊丹では指定袋すらない。ごみ処理は税で賄うべきで、手数料の導入は税の二重取りである。住民への影響も大きく、値上げには反対である。また、在庫不足にはどのように対応するつもりなのか。店頭での掲示や自治会回覧で回すなど対応してほしい。</p>	<p>在庫不足によりご迷惑をおかけしていることについてはお詫び申し上げます。早々に市からのメッセージ等を検討しているところであり、店頭での対応についても同時に進めていく予定である。</p> <p>税で何を賄うのか、受益者負担の考え方で何を賄うのかについては、自治体運営における永遠のテーマである。ごみの減量化は長期傾向としては進んできているが、一方で設備更新や運営コストについて、今後の財政負担を賄いきれない状況である。有料化は阪神間では例がないとはいえ、公平性の確保という面で一定の受益者負担を求めていくことは検討としてはありうると考えている。生活に影響が大きいことは十分承知しており、できるだけ避けたい気持ちはあるが、ご理解いただいて検討を進める必要があると考え、今回提案している。検討を重ねた結果実施するとしてもR11以降であり、時間をかけて説明していきたい。【財務部長】</p>
10	<p>○ロードマップ（案）の示し方について</p> <p>内容が全て市民負担を強いるものになっており、理解に苦しむ。何のために作ったのか。市としては何にお金をつかっているのか具体的な説明がなくわからない。</p>	<p>ロードマップ（案）の取組の結果、このようなことができるということを示せばよかったが、ロードマップ（案）の性質上、負担を強いるというメッセージのみが伝わってしまった。その点については反省している。【市長】</p> <p>人件費やその他経費などの行政運営に係る間接経費を減らす努力を市としても取り組むこととしている。これがないと市民としても納得できないと考えたからである。【財務部長】</p>
11	<p>○ロードマップ（案）の取組について</p> <p>取組を実施しない場合、新たな取組が必要とのことだが、脅しではないか。財政効果見込額と収支不足との関係性がわからない。</p>	<p>取組項目ごとに財政効果見込額を算出しており、その取組をしないとするとその分収支不足が埋まらないことになるため、代替の取組が必要になるという考え方である。代替の取組を考えるのが行政の仕事だと言われるかもしれないが、最終的な施策として形にするのは確かに行政の役割だが、市民の価値観としてどのようなことを大切に取組を考えるべきかというヒントは出してほしい。そのための意見交換会であり、パブコメでも出してほしい。【財務部長】</p>
12	<p>○市長の決意表明について</p> <p>市長は「私がやらないと三田は変わらない」とおっしゃっているが、どういう考えなのか。市民の声、議会の声を聴いたうえで市政運営をすべきである。1人でなにができるのか聞きたい。</p>	<p>1人では当然できないし、そのような発言もしていない。今までできていなかったことをやらなければいけないということはメッセージとして伝えている。【市長】</p>
13	<p>○フラワータウン市民センターの移設について</p> <p>10億円もの費用がかかることについて、市民に説明しているのか。</p>	<p>別途、住民説明会をさせていただいており、市民センターの複合化はまちづくりの視点から必要だと考えている。無駄な投資ではなく、センター地区を活性化するための投資として考えていただきたい。【市長】</p>
14	<p>○公民連携について</p> <p>行政・企業・市民の3者がWinにならないといけないが、三田市では市民の多くがWinになっていないのではないのか。</p>	<p>行政だけで様々な課題を解決するには限界がある。そういう意味で公民連携の先進都市を目指しているのだが、なぜそれぞれのロケーションで実施していかないといけないのか、その都度市民に極力細かく説明をしていく必要はあると考えている。【市長】</p>
15	<p>○フラワータウン市民センターの移設について</p> <p>移設関係の予算が否決されたが、議会は民意の反映であり、推し進めるのであればしっかりと説明と意見交換をお願いしたい。</p>	<p>おっしゃるとおりである。まちづくりは地域によって全く事情が異なる。フラワータウンについてはイオンの撤退の回避と再生ビジョンの具体化を同時にやらないと時間的に間に合わないという状況があり、住民にビジョンの認識があまりなかったため、市が一方向的に進めているという印象を与えてしまったことについては反省しなければならない。センター地区の人だけではなく、センター利用者やその他関係者の意見を聴くべきであったと考えている。一方で、小学校の統廃合は問題があり止まってしまっているが、今後はこのようなことがないようにしていきたい。【市長】</p>

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月18日 広野市民センター）

参加人数:10名

No.	意見の内容	市の考え方
16	○フラワータウン市民センターの移設について 市民センター跡地にマンションを建設するのは都市計画法上可能なのか。	現状ではできないという認識をしている。【市長】
17	○ロードマップ（案）の位置付けについて フラワータウン市民センター移設の費用について一切反映されていない。いい加減なやり方であり、市民負担を強いることの筋が通らない。根本的に考え直す必要があるのではないか。	今回の発端となる財政収支見通しは今年の2月に発表したものであり、作業はそれ以前に完了しているものである。一方で、フラワータウンの移設問題はそれ以降の話であり、時系列の関係でこの収支不足額には入っていない。今後作成するものには当然反映していくことになる。今後、わかりやすいように説明は尽くしていく。【財務部長】 移転の説明会では、財政効果の比較について資料をつけて説明している。なお、フラワータウン市民センターの移設と財政収支見通しがリンクしていないのは、時系列によるものであり、隠しているわけではない。【市長】
18	○学校・幼稚園の統廃合について 統廃合が本当に未来につながるのか疑問である。少し前に説明会があったが、統合のメリットばかり強調され、少人数のメリットには触れられていなかった。 地域から学校がなくなると、地域は廃れていくことになる。小規模の魅力を発信することで、地域を活性化し、若者や子育て世代の定住につなげることが必要だと考える。	学校の統廃合については持続可能な形を検討する必要がある。地域への影響が大きいことは認識しており、意見を聴きながら進める必要がある。 全国的に統合はどこでも見られるが、三田市では結果的に統合が進んでいないことから、ロードマップ（案）にも方針を反映したところである。 少人数学級のメリットがあるのは理解できるし、若者が入ってこなくなる懸念も理解できるが、新しく三田に来る人それぞれで想いは異なる。地域の人がどう考えているのか、選ばれる地域になるにはどうすればいいのか、地域の事情もそれぞれ異なるので、個別に考える必要がある。【市長】
19	○ごみ袋の値上げについて 賛成・反対は個人により意見は異なるが、値上げにより野焼きや不法投棄が増えることが予想されるので、対策をしっかりしてほしい。	対策については、有料化の検討の中で合わせてしっかりと考えていく予定である。【市長】
20	○総人件費の抑制について 残業時間を減らしたり職員数を減らすのはいいが、若手の負担が増えるのではないかと。ブラック企業化しないような配慮は必要である。 また、働き方を柔軟にすることで、高齢の職員を活用する方法をノウハウの継承の面からも検討すべきである。 システム化への投資も必要だと考える。 加えて、議員の削減も必要ではないか。	働き方改革についてはチームを作って対応しているところである。 特に、マニュアル化の面では反省すべき点があり、今までは個人のパフォーマンスに左右されることが多かったことから、今後は整備を徹底していく。 また、フロア配置の見直しや案内コンシェルジュの配置、システム面では受付システムを更新することで、市民サービスの向上につなげている。 今後迎える大量退職の結果、職員が足りなくなることが想定されるが、給料の引き上げも限界があることから、働き方改革を徹底し、選ばれる市役所を目指す必要がある。 議員定数の削減については、議会の意向もあることから意見として聞いておく。【市長】
21	○地域内交通のあり方について 農村部へのアクセスについて、バスがない。地域内交通は住民しか使えないため、同居していない家族が病院に付き添う場合など、駅からの交通費の負担が大きい。何とかならないか。	地域内交通を考える際に、住民の方はもちろん、関わる方の交通手段についても、交通事業者とも課題の共通認識をしていく。【市長】 【補足】 質問者において、地域内交通の利用方法に関して一部誤解があったことから、後日、市から本人に説明のうえ解決している。

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月26日 ウッディタウン市民センター）

参加人数:19名

No.	意見の内容	市の考え方
1	○財政ロードマップ（案）意見交換会について 市内4か所でしか実施しないのはなぜか。市民の意見を聞こうとしない、言わせようとしていないためか。	市の姿勢としては、これまでもタウンミーティングを開催するなど、市民の意見を聴く機会をつくるようにしている。 財政ロードマップ（案）意見交換会については、いったん取組（案）をお示し、スタートを切るために実施するものであり、個別の取組については別途意見を聴く機会を設定しながら進めることから、4か所での開催としたものである。【財務部長】
2	○ロードマップ（案）策定の背景について 93億円の収支不足の原因は何か。今後、変わることはあるのか。	今年の2月に財政収支見通しで説明しているが、この10年に関しては、社会保障経費の増大と市民病院を含めた複数の投資経費の増大が原因としてある一方、税収については縮小する見込みであり、結果として収支ギャップが生じている状況である。 93億円という収支不足額については、収支見通しを更新すれば変わる可能性があるが、大きくなることも考えられ、その場合はさらなる財政的な対応を検討する必要がある。【財務部長】
3	○ごみ袋の値上げについて サービスの向上につながるならわかるが、財政が厳しいからという理由では説明がつかない。	市民の日常生活に影響が大きいことは十分承知しており、できるだけ避けたい気持ちはあるが、財政状況を踏まえると税収増が見込めない中、手数料の導入については検討を進める必要があると考え、今回提案している。当然、市民の意見も聴きながら進めることであり、今後時間をかけて検討していくにあたり、このタイミングで案をお示ししたものである。【財務部長】
4	○市民病院の再編統合について さらに事業費が増えるのではないか。収支不足の大きな原因であり、中止すべきではないか。	病院事業費については、経費の上昇分も含め、用途としては今年度内には概算経費をお示し対応していく予定である。なお、市民病院については市民に必要なサービスであるということで、これまで合意形成が進められてきている。【財務部長】
5	○ロードマップ（案）の取組について 内容が全て市民負担を強いるものになっている。赤字は市の責任ではないのか。	身の丈にあった財政運営の例としては、今年度公共施設のマネジメントの中間見直しを実施した。その中で、やらなければならないことは優先的に実施するものの、縮充の観点から計画を修正している部分はある。 小中学校に関しては、単純に数を減らせば財政負担が減るから実施するのではなく、本来やらなければならないことができていなかったという背景がある。他市町では、地域との話し合いを含めかなり統廃合が進んでいる。子どもたちが今どのような状況になっているのかについても教育委員会と話をしており、今後は協働して進めていく。【市長】
6	○ごみ袋の値上げについて 広報紙に記載のあった県下自治体の一覧について、13市5町の情報しか載っておらず、公平性を欠くのではないか。また、一部地域で値上げ中止との話が広まっているようだが事実か。	一覧表は値上げ幅の検討にあたって、有料化実施済の県下自治体の状況を参考情報としてまとめたものであることから、未実施の自治体の情報については記載していない。 なお、値上げの検討について中止した事実はない。【市長】
7	○長期財政収支見通しについて 10年で93億円の収支不足ということだが、それ以降の収支は大丈夫なのか。	11年目以降の財政収支見通しについては、作成していないのでお示しできないが、10年間でも93億円の収支不足であることから、取組を実施しなければそれ以降の収支不足はさらに悪化することが想定される。【財務部長】
8	○フラワータウン市民センターの移設について ロードマップ（案）に影響額は反映されているのか。	財政収支見通しを策定した時点で具体化していなかったため反映されていない。その他の案件と同じく、今後、状況によっては見込む場合もある。【財務部長】

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月26日 ウッディタウン市民センター）

参加人数:19名

No.	意見の内容	市の考え方
9	○ロードマップ（案）の実現可能性について 小学校の統廃合は過去10年間で1例できたのみで、放課後児童クラブの見直しについても、現場に伝わっていない。このような状況で実現可能なのか。 また、人口を10年で5,000人増やすという取組も実現可能なのか。	それぞれ、いったん案としてお示ししているものであり、今後ご意見を踏まえながら進めていく。子どもの関係については、本来あるべき姿は何かということで、学校の再編統合については、望ましい教育環境を実現するための取組が遅れているということがあり、改めて進めていくというのが第一にある。その結果、財政効果についても見込めることからロードマップ（案）に記載をしているものであり、独断で進めているものではない。 また、移住定住の目標が高すぎるという指摘については、数値を各年度に均等に振り分けて示したのだが、各年度の平均定量の目標達成に向けて、実現する手段を確保していく。【財務部長】
10	○人口減少の見込み方について 人口推移の見通しについて示されているが楽観的ではないか。厳しい見方をするとこれ以上に減少することが見込まれるが、10年後に10万人を維持するための具体的な施策が移住定住促進施策しか書かれていないのは問題ではないか。	実現可能性については、テクノパークには大手企業が50数社あり、他にも市内に上場企業があるが、それだけでも従業者が1万人近くおり、そのうち約半数が市外在住であることから、移住定住に関する補助金制度に関心を示している。 そのため、それらの方々をメインターゲットにR7から補助金の予算については大幅な増額をしており、引き合いもかなり来ている状況である。また、大手企業以外にも市外在住者はいることから、決して実現不可能ではない。なお、施策については取り組み始めたばかりであり、今後の推移を見守りながらさらなる手を打っていきたい。【市長】
11	○財政ロードマップ（案）意見交換会について 意見交換会を4回しか開催しないことについて、市民の意見を反映することが目的ではなく、手続きの一つとして実施すること自体に目的があるからではないか。かつ、出された意見についても事務局以外の目に触れることなく処理されるのではないか。 また、意見交換会の結果についてホームページで公表する予定はあるのか。	財政ロードマップについては11月中の策定をいったん予定しており、時間が限られていたことから4回の開催になったものであり、市民の意見を聴く姿勢は変わらず今後も継続していくつもりである。【市長】 市民の意見をしっかりと聴くため、今回パブリックコメントについては通常より長めの期間を確保し、十分意見を出してもらえる形にしている。意見交換会およびパブリックコメントで出された意見については、全て関係部署に照会し、市全体としてきちんと回答方針を検討していく。そもそも、財政ロードマップは財政部門が事務局ではあるが、その取組内容は市全体で検討、意思決定を行い、公表しているものである。 三田市の将来は財政的に大きな課題があるのは明らかであり、市民からも多様な意見があったとしても、何か対策をしないといけないことには変わりはない。そこで、議論を始めるためのたたき台として課題を市民と共有したいという思いで示したものが今回のロードマップ（案）である。したがって、内容については確定したのではなく、これから意見を聴きながら議論をし、一番市民が望まれることを実現していくという意図があることを念頭にご意見いただきたい。 意見交換会の結果については、市ホームページで公表する予定である。【財務部長】
12	○ロードマップ（案）の示し方について なぜ、これほど財政状況が悪化するまで問題が放置されたのか。責任を持って担当するのは市民に説明する時だけで、人事異動により責任の所在が曖昧になっていたからではないのか。	今回の意見交換会についても、全部長が出席して対応することも考えたが、私と事務局である財政部門が代表して出席し、出された意見については対応することにしたものであり、決して財政部門に全ての責任を負わせることで、その他関係部署への責任追及を逃れようという意図で参加を見送ったものではない。【市長】
13	○市の業務に対する姿勢について 以前、市のいきがい応援プラザ（HOT）に勤めていた際、引継書を作成したが、後任者がそれを見ていない、そもそも引継書を作らなくていいとも言われたが、市のこのような姿勢が責任所在の曖昧さや担当者が変わると話が元に戻るという原因ではないか。世間一般的な対応はすべきである。	引継書は一般企業と同じく市でも作っているが、誤った考え方をを持った職員もいるかもしれない。私は、「市長への手紙」と「わたしの提案」を統合し、全ての意見に目を通すようにしているが、実際にそのようなお叱りを受けている。 このようなご意見に対して、全職員が取組状況を共有できるような仕組みに変えようとしているところであり、それにより内部体制の強化を図っていきたくと考えている。【市長】

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月26日 ウッディタウン市民センター）

参加人数:19名

No.	意見の内容	市の考え方
14	<p>○まちづくりの担い手について</p> <p>まちづくりに若い人がたくさん参加して、真剣に考えてくれるかどうかで三田市が住みやすくなるかどうかを考えている。また、郷土史にも参考になることが多いのでよく勉強してほしいし、HOTにはまちづくりに長けた人がたくさんいるので、そのような人材を生かしてほしい。</p>	<p>郷土史については、市のOBを含めて取り組んでいるところであり、歴史的にも三田市には貴重な史跡や人材がいることから、その広報にあたってはHOTの皆さんのお力をお借りしたいところであり、またお声がけをさせていただく。今回の意見交換会もそうであるが、若い人が声を上げたいと思うような市政を作っていきたいと考えているところであり、引き続きしっかりと対応していきたい。【市長】</p>
15	<p>○ごみ袋の値上げについて</p> <p>阪神間では指定袋がないところも多く、値上げされるなら三田に住みたくないという意見を聞く。特に、子育て世帯はおむつやお菓子、小さくなった子供服などごみがたくさん出る。若い世代に来てほしいなら値上げはやめるべき。</p>	<p>値上げにより子育て世代が三田に来なくなるのであれば、当然見直す必要があるが、子育てしやすいまちかどうかはごみ袋の値段だけで決まるものではなく、他のサービスを充実させることで補うこともできると考える。また、増え続けるごみ処理経費に税を投入し続けると、その他の市民サービスの縮小を余儀なくされることから、そういう点も踏まえて十分検討していく必要がある。【財務部長】</p>
16	<p>○ロードマップ（案）の取組について</p> <p>フラワータウン市民センターの移設中止や市長の報酬カットなど、できるだけ無駄なお金を使わず、出費を減らすのが先決。全部市民にしわ寄せがきている。市街化調整区域の緩和など、住民や店舗を呼び込むなどの方法も検討すべきではないか。</p>	<p>無駄なお金を使わないことについては意識的に努めており、フラワータウン市民センターの件についても、十分説明をしながら判断をしていく。市街化調整区域の緩和については、直接的な効果がすぐ見えるものではないことからロードマップ（案）の中には入っていないが、今後、市全体の施策の中で運用や効果の創出について計画し、それを市民に伝えていく。【財務部長】</p> <p>フラワータウン市民センターの移設については、商業施設がなくなることを第一に考えた結果、提案したものであり、まちづくりへの投資である。財政負担額だけで議論するのではなく、市全体を見てどこに投資をするのか考える必要がある。【市長】</p>
17	<p>○ロードマップ（案）の示し方について</p> <p>このような30項目の取組（案）を示す前に意見交換会をすべきだったのではないか。</p>	<p>8月の公表以降、9月の市広報に掲載したが、説明の機会が乏しく、ロードマップ（案）を策定した市の意図が市民に伝わらなかったことは反省している。意見交換会を実施するにしても、たたき台としてこういう取組が必要ではないかということを示さないことには具体的に意見をいただけないという考えがあり、検討を重ねた結果、一旦（案）をお示しすることが合理的であると判断したものである。【財務部長】</p>
18	<p>○学校・幼稚園の統廃合について</p> <p>最初に統廃合の話が出た時、教育はお金と関係ないということで、子どものことを考えてくれていると思ったが、今回のロードマップ（案）では数字ばかりを追っている。子どもの気持ちをどのように考えるのか。発想を転換し、少人数学級の良さを生かし、教員も増やせばいい。そこに税金を投入するなら市民も反対しない。三田のPRにもつながると考える。</p>	<p>小規模校の教育上のメリット、デメリットはそれぞれあるが、子どもが感じている不安や不満がたくさんあることは実際に聞き取りをして把握しており、保護者や教員についても同様である。統廃合については、今まで教育委員会に対応を一任していたが、今後は市長部局も連携しながら取り組んでいく。統廃合は財政効果を求めて進めているのではなく、子どもたちが学習面で小規模化によるマイナスの影響を受けていることによるものであり、このことは市民も一緒になって考えていただきたい。そういうことを今後も丁寧に説明しながら進めていく。【市長】</p>
19	<p>○ごみ袋の値上げについて</p> <p>ごみ処理施設の減価償却は相当進んでいると思うが、なぜ200億円も必要なのか。類似団体では50%以上がごみ処理を有料化しているとの説明があったが、三田市が属する阪神7市1町で有料化しているところはない。一番取りやすいところから取るという単純な考えではないのか。</p>	<p>減価償却については現在のごみ処理施設については当然進んでいるが、負担を求めているのは新たなごみ処理施設に関してである。有料化は実施されれば阪神間では初ということになるが、それぞれの市の財政状況や負担が生じる課題は異なることから、三田市においてはそのような検討を進めたいということでご提案させていただいている。【財務部長】</p>

三田市未来への財政ロードマップ（案）及び第1次実行計画（案）  
市民意見交換会における意見及び回答  
（令和7年10月26日 ウッディタウン市民センター）

参加人数:19名

No.	意見の内容	市の考え方
20	○人口減少の見込み方について 県の見通しが甘いこともあるだろうが、市も人口減少を甘く見ている。ごみ袋値上げを知った若い人からは三田市には住まず、北区に住むという声を聞いている。日常生活と切り離せないごみ袋が値上げされれば、人口増加施策の効果以上に人口が減ると考えている。ロードマップ（案）を考えるうえでは、その点も考慮しなければならない。	人口減少の緩和に関しては、一番厳しく見込んだ人口推計から4年間先送りにするという目標のもと取組を進めていくものである。【財務部長】 向こう10年間で1万人減るとい人口推計に抗わなければならないのだが、減少する数というよりは中身を変える必要がある。働く世代には多く入ってきてもらわないと市税収入に影響するため、そういうことがないように取組を進めていく。【市長】
21	○市長以下の給与カットについて 市民に痛みを強要するのであれば、市長をはじめ管理職の給与をカットすべきである。市長は就任直後に不信任決議案、直近には予算案の否決と、前例のないことばかり起こしており責任を取らないといけな。	職員の給与カットについては現状では計画していない。また、私の報酬カットについても考えていないが、今後検討することは考えられる。なお、職員については働き方改革を徹底することにしており、短期間で道しるべを作り実行していくことで対応しているところである。【市長】
22	○ロードマップ（案）策定の背景について 10年間の収支不足93億円について、算定の前提条件となる中身がわからないと、何が原因なのか理解できない。これでは、議会も審議できない。	クリーンセンター等の大規模投資事業については、その都度広報紙に掲載したり、説明会を開催したりしているが、市全体の財政に対する影響と結び付けて説明しているわけではないため、今になって突然のような印象を与えてしまっていることについては今後考えていかなければならない。【財務部長】
23	○ロードマップ（案）の取組について 公共料金は引き上げて当然だというやり方からは市民へのシンパシーが感じられない。これでは若い人がかわいそうだ。移住定住促進と言いながら、一方でごみ袋の値上げではやっていることが真逆だ。	移住定住促進策については、矛盾のないように検討していきたい。【財務部長】
24	○長期財政収支見通しについて 短期の収支見通しでは判断ができない。新病院を作るのであれば、30年はケアをしなければならないことから、同じ期間の収支見通しが必要である。11月中に示してほしい。普通の感覚で推測すれば、作成は可能だと考える。	状況に応じた財政収支見直し更新の必要性は認識しているが、市では1ヶ月以内に作業を完了できるような体制を持ち合わせていないことから、現時点では対応は不可能と考える。【財務部長】